

# 大豆情報

## H30 Vol.1

H30.8.2

宮城県 石巻農業改良普及センター

Tel : 0225-95-7612 Fax : 0225-95-2999

### 6月以降の気象経過

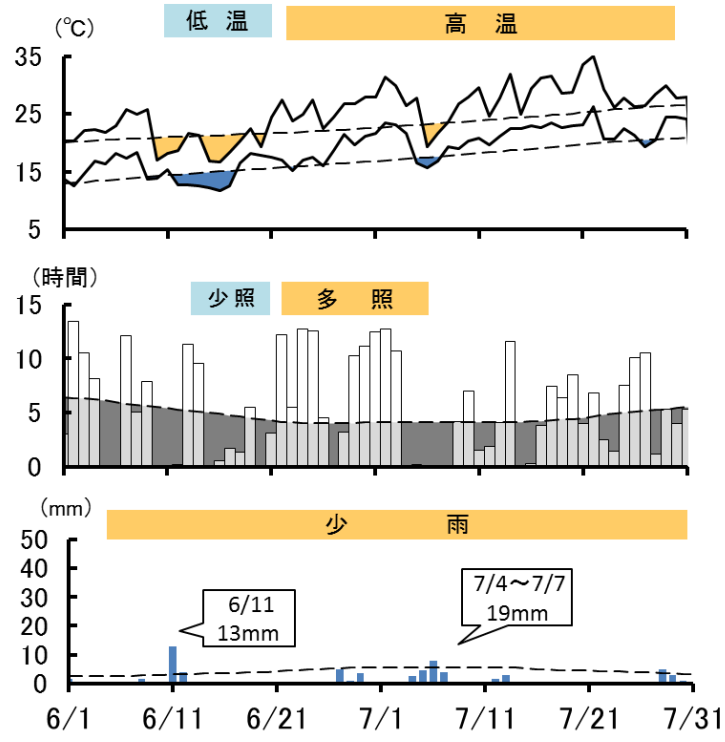
#### △ 超少雨 & 高温 △

##### <6月> 中旬は低温、上・下旬は高温傾向

気温は6月中旬に平年よりも低くなりましたが、上旬及び下旬は平年よりも高く推移しました。日照時間は6月中旬は平年比61%でしたが、下旬は195%と多く、6月としては平年比114%でした。降水は期間を通じて少なく、6月の降水量は平年比26%と大変少なくなりました。

##### <7月> 気温は高く、降水量は大変少ない

7月の平均気温は平年差+2.8℃で、6月下旬に引き続き平年よりも高く経過しました。日照時間は平年比110%と平年よりやや多くなりました。降水量は6月に引き続き少なくなりました。特に7月中旬は平年比10%、7月全体としても平年比23%と大変少なくなりました。



### 調査ほの生育状況(7/25)

### 初期生育は平年並～大きい

タンレイ(広淵) 6/17播種



栽植密度 119本/m<sup>2</sup>

ミヤギシロメ(小船越)

6/25播種



栽植密度 9.4本/m<sup>2</sup>

タンレイ(水沼) 6/18播種



栽植密度 135本/m<sup>2</sup>

ミヤギシロメ(牛田)

6/15播種



栽植密度 8.9本/m<sup>2</sup>

タチナカハ(蛇田) 6/7播種



栽植密度 9.8本/m<sup>2</sup>

## <注意> 高温により生育が進み、開花時期等が早まると予想されます。

- ◆**タンレイ** : 2ほ場とも生育量は平年を上回っています。開花期は広渚では8月1日(平年差: -2日)、水沼では7月30日(平年差: -5日)となり、平年よりも早くなりました。
- ◆**タチナガハ**: 播種が前年より早く、生育量も昨年を上回っています。また、7月26日には開花期となりました。(開花期: 前年差 -13日)
- ◆**ミヤギシロメ**: 小船越では播種が平年より15日遅いことから、生育量は平年よりも小さくなっています。牛田では播種が平年より6日遅くなりましたが、生育量はほぼ平年並でした。

表1 調査ほの7月25日付け調査結果

品 種 (作型)	地点名 (旧市町)	播種日(月日)			主茎長(cm)			主茎節数(節/本)			分枝数(本/本)		
		本年	前年差	平年差	本年	前年差	平年差	本年	前年差	平年差	本年	前年差	平年差
タンレイ (普通)	広渚 (河南)	6/17	+3	+3	38.7	+0.9	+8.5	10.7	+0.9	+2.3	2.0	+0.7	+1.7
タンレイ (麦あと)	水沼 (石巻)	6/12	-4	-5	37.6	+9.4	+10.4	9.6	+1.3	+1.8	1.6	+0.1	+1.0
タチナガハ (麦あと)	蛇田 (石巻)	6/07	-17	-13	39.5	+13.9	+11.6	11.1	+4.7	+3.7	1.0	+0.3	+0.6
ミヤギシロメ (麦あと)	小船越 (河北)	6/25	+5	+15	23.2	-10.9	-15.8	7.6	-0.7	-2.2	0.3	-0.9	-1.2
ミヤギシロメ (麦あと)	牛田 (桃生)	6/25	+11	+6	30.2	+1.8	+3.0	7.3	-0.9	+0.1	0.1	-1.0	-0.5

※ 平年値 : H25~H29の5か年平均。

※ タチナガハ(蛇田)のみ調査5年目のため、平年値H24~H29の4か年平均。

## 除塩調査ほの生育状況(7/25)

- ◆7月25日時点では2地点すべてで生育は良好でした。塩害による影響も現時点では確認できません。

表2 除塩調査ほの7月25日調査結果

品 種	地点名 (旧市町)	播種日 (月日)	主茎長 (cm)	主茎節数 (節/本)	分枝数 (本/本)
ミヤギシロメ	針岡 (河北)	6/23	21.2	8.0	0.6
タンレイ	洲崎 (鳴瀬)	6/18	31.3	9.2	1.4



## 今後の管理

### ◆中耕・培土

- ◎ **開花期の10日前まで**に終わるようにしましょう。  
必ずほ場を確認してから実施しましょう。
- ◎ 生育量が小さいほ場や排水不良のほ場、麦あと晩播になるほど、標播より作業可能期間が短くなるので、遅れないよう適期に作業しましょう。
- ※ **中耕・培土が遅すぎると、根の切断や花、莢に損傷を生じるだけでなく、分枝が機械に絡まることによって倒伏を助長するなど、減収につながる場合があります。**

### ◆追肥

- ◎ 湿害等により葉色が著しく淡い場合や生育不良の場合には、硫安などの速効性肥料で生育回復を図りましょう。施用量は**N成分で2kg/10a程度**が目安です。
- ※ **窒素過多は根粒菌の活性を低下させるので注意しましょう。**
- ◎ 大豆は開花期以降多量の窒素を必要とするので、根粒菌の着生や地力が劣るほ場では、最終培土時に緩効性肥料(LP40)を現物で12kg/10a程度施用すると、増収が期待できます(普及に移す技術第53号)。
- ※ **ミヤギシロメでは蔓化・倒伏を助長する場合がありますので、注意しましょう。**

### ◆病害虫対策

**タンレイ：紫斑病防除を最優先**

**ミヤギシロメとタチナガハ：マメシンクイガなどの子実害虫防除を優先**

#### ◎ 紫斑病

降雨が多く、収穫時期の気温が高いと発生が多くなります。特にタンレイで多発しやすいので、**タンレイでは開花期後20～40日に2回防除**しましょう(同一剤の使用は避ける)。

### <ポイント> 開花期を確認しましょう!

紫斑病対策には適期の薬剤散布が重要なので、**開花期を確認して防除日を決める**必要があります。

大豆の開花期は、「**1つでも開花の見られた株が全株の4～5割に達した日**」です。開花は、ほ場の外からでは判断しにくいので、必ずほ場の中に入って観察し、正確に判断しましょう。

また、タンレイでは開花期の生育指標(目標収量300kg/10a)が示されているので、開花期に主茎長と主茎節数を測定することで、生育診断ができます(表4、普及に移す技術第87号より抜粋)。

表4 タンレイの開花期の目標生育量

播種期	主茎長	主茎節数
標播	約60～65cm	約13～14節
晩播	約45cm以上	10節以上

※ 目標収量300kg/10aとした場合の生育量の目安



◎ **子実害虫**(マメシクイガ, フタスジヒメハムシ, ダイズサヤムシガ, カメムシ等)

☆**マメシクイガ**

連作ほ場で多発します。**8月末～9月はじめに1回目の防除**, その7～10日後に2回目の防除を行いましょ。

※マメシクイガは日長に反応して休眠覚醒するため, 発生時期の年次変動は少ないのが特徴です。

☆**フタスジヒメハムシ**

生育初期の葉の食害に加え, 若莢の表面を食害し, そこから雑菌が侵入して汚粒の原因となります。第2世代成虫の発生盛期(8月下旬～9月上旬)に防除を行いましょ。

☆**ダイズサヤムシガ**

若齢幼虫が**成長点付近の葉をすり合わせて食害しているとき(右写真)に防除**しましょ。



◎ **食葉性害虫**(**チョウ目幼虫**, コガネムシ類)

開花期後(特に莢伸長期～子実肥大期)に食害を受けると減収することがあるので, **食害葉面積率20%(右写真)を目安に防除**しましょ。



◎ **アブラムシ類**

モザイク病や萎縮病といったウイルス病を媒介し, 多発すると早期落葉して収量・品質が低下します。

**葉の黄化・褐変症状が見られたら(写真右上)葉の裏を確認し, 発生が多いときには薬剤による防除**を行いましょ。また, モザイク・萎縮の見られる株は抜き取ります。



◆**乾燥対策**

◎ 大豆は開花期以降, 大量の水を必要とし, 不足すると落花・落莢により減収するので, **晴天が7日以上続き, 土壌が白く乾燥し, 日中の葉の半分以上が反転している場合には, 暗きよを閉じて水分保持(地下かんがい)するなどの対策が有効**です。

◎ 畝間かん水が可能な場合は実施しましょ。

**畝間かん水の注意点**

① **必ず夕方～朝方にする**  
(日中は絶対にダメ!)

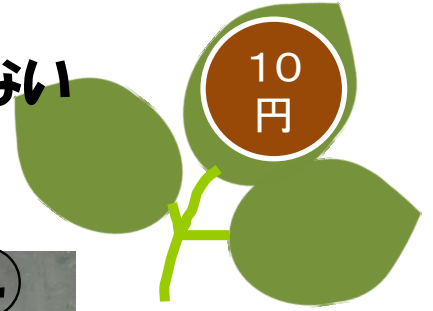
② **過湿にならないようにする**

(参考)

# 大豆の葉数の数え方について

## ◎本葉(3枚一組)を数える

真ん中が10円玉より小さい葉は数えない  
子葉, 初生葉は数えない  
分枝の葉は数えない



写真の場合は4葉期です。

※ 「主茎節数」は、子葉節と初生葉節も数えるので「葉数+2」となり、写真の場合は6節となります。

### 1か月予報 (8/4~9/3)

仙台管区气象台 8月2日発表

期間の前半は降水量の少ない状態が続く所があるでしょう。

○1か月の気温, 降水量, 日照時間の各階級の確率(%)

○週別気温経過の各階級の確率(%)

